

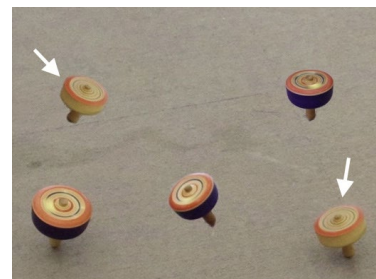
## 【こま回し】

奈良時代に朝鮮半島の高麗(俗称こま)から伝わったので「こま」といい、「独楽」の字をあてるようになったようです。

物事が円満にまわるに通じて縁起がよく、うまくまわると子どもが早く独り立ちできると言われています。

お正月遊びとして子どもに親しまれるようになり、さらに、「お正月」という童謡のなかに「こまをまわして 遊びましょう」という歌詞があることから、少しずつお正月の遊びとして定着していったのではないのでしょうか。

神奈川県内では大山ごまと片瀬ごまが有名です。下の写真の説明では大山ごまを使っています。



大山ごまと片瀬ごま (矢印)

## あそんでみよう！

### 【準備】

- ・1人に1個配布し、こま回しの練習をする。
- ・ヒモを巻くのが難しいので、最初は指導する人が巻いてあげてこまを回すところから始め、回せるようになったところで、ヒモを巻く練習をする。

### 【進め方・ルール】

- (1) ヒモを自分で巻けるようになったら、大会を開始する。
- (2) 木の芯のこまを人数分用意し、5人一組で実施する。複数グループで実施する場合は、最初は予選として、上位者による決勝戦を実施する。
- (3) 持ち方は下記参照。まずは一斉に下から手首をひねって回す、基本回しで「寿命比べ」をして、暫定順位を決める。一番最後までこまが回っていた人が「天下」となる。
- (4) 次からは一番早く止まってしまった人から自由に回し、「天下」(一番回っていた人)まで回して、次の順位を決める。全員が回した後に、「はたき」(ひものはたき(房)で自分のコマをはたいて、寿命を延ばす)あり。
- (5) もし「天下」が負けたら、一番下まで落ちる。これを「天下落ち」と言う。
- (6) また一番下から回す。これを5回程度実施して、最後に「天下」だった人が優勝。

※木の芯のこまだと地面で回せる。鉄芯だと固い地面やコンクリートなどでないと回せない。ネット通販で1個400～800円程度で販売している。

※なぜコマが倒れずに回るのか？ ⇒ 「歳差運動」をネットで検索してみてください。



ひもの巻き方



こまの持ち方